

海外經濟戰略対策特別委員会會議錄

平成29年 1 月27日

場 所 第4 委員会室

平成29年1月27日（金曜日）

午前9時59分開会

会議に付した案件

○協議事項

1. 委員会報告書骨子（案）について
 2. その他
-

出席委員（12人）

委員	長	田口雄二
副委員	長	中野一則
委員		緒嶋雅晃
委員		蓬原正三
委員		中野廣明
委員		黒木正一
委員		日高陽一
委員		満行潤一
委員		高橋透
委員		渡辺創
委員		重松幸次郎
委員		囎師博規

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

事務局職員出席者

政策調査課主査	森田恵介
政策調査課主幹	黒木誠

○田口委員長 それでは、ただいまから海外経済戦略対策特別委員会を開会いたします。

本日の委員会の日程についてであります、お手元に配付の日程（案）をごらんください。

本日は、委員会報告書骨子（案）等について、

御協議いただきたいと存じますが、このように取り進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○田口委員長 それでは、そのように決定いたします。

では、早速ですが、協議事項（1）の委員会報告書骨子（案）についてであります。

お手元にA3版の資料が配付されているかと思いますが、御確認ください。

当委員会では、調査項目を本県の海外経済戦略に関すること、インバウンド対策に関すること、アジアとの交流促進に関すること、輸出拡大に向けた取り組みに関することの4項目に決定しましたので、この項目に沿った形で、現状と課題、県への提言について記述し、最後に全体を総括したいと考えております。

詳細につきましては、書記から説明させていただきますので、森田書記、よろしく願いいたします。

○森田書記 それでは、座って御説明申し上げます。

A3版の海外経済戦略対策特別委員会報告書骨子（案）をごらんください。

IIの調査活動の概要からであります。

まず、前書き、調査活動の経過としましては、県内の状況としては、東アジアに限らず、よりグローバルに事業展開を行う企業が見られることや、多様な主体、多様な分野での国際交流により構築したネットワークを生かし、世界で稼ごうとする動きが見られていることから、本県では、平成24年3月に策定した「みやざき東アジア経済交流戦略」を発展的に継承し、東アジア市場に軸足を置きつつ、世界市場にもシェアを広げた取り組みを推進し、海外との交流拡大を図るものとして、平成28年3月に「みやざき

グローバル戦略」を策定したことなどについて記載し、このような状況を踏まえ、当委員会では、①本県の経済戦略に関すること、②インバウンド対策に関すること、③アジアとの交流促進に関すること、④輸出拡大に向けた取り組みに関することを調査事項として決定したことと、この調査事項に沿って、これまでの委員会の活動経過を述べたいと考えております。

まず、1、本県の海外経済戦略についてであります。

(1) みやざきグローバル戦略では、担当部局から説明のありました戦略の内容等について、総論的に記載するとともに、質疑の際に委員からの意見がありましたことを述べたいと思いません。

(2) 県への提言では、委員からありました意見をもとに、高い目標を設定しつつも、それを達成するために具体的で、かつ説得力を持ち、県民が将来展望を描けるような指標を提示して取り組んでいくよう要望したいと考えております。

次に、2、海外への展開促進の取り組みについてであります。

まず、(1) 海外展開についてであります。

①県内生産品の輸出については、加工食品や農畜産物などの県内生産品の輸出の現状や県の取り組みを記載し、委員からありました意見も加えて述べたいと思いません。

あわせて、意見交換を行った道本食品株式会社及び宮崎ひでじビール株式会社の事例、さらに海外調査で市場調査を行った香港の一田百貨についても触れたいと思いません。

②県内企業の海外進出については、県内の現状を記載するとともに、意見交換を行った株式会社ニチワ及び株式会社八興商事、海外調査

で訪問した旭有機材閥門有限公司の事例について触れたいと思いません。

③貿易関連団体等の取り組みでは、意見交換を行ったジェトロ宮崎及び宮崎県輸出促進コーディネーターの取り組み事例等について触れたいと思いません。

④海外の状況等については、海外調査を行った調査先のことについて触れたいと思いません。

⑤成果指標については、みやざきグローバル戦略で定められている成果指標を記載するとともに、委員からありました意見を述べたいと思いません。

最後に、(2) 県への提言では、委員からありました意見をもとに、2点、要望したいと考えております。

まず、①輸出拡大に向けた取り組みについてとして、人口減少に伴う農産品等の国内需要・国内市場の縮小が見込まれる中で、中小零細の海外展開企業や貿易企業の育成・支援や、他県の海外への展開手法の研究など、輸出拡大を進めていくための方法について、さらに検討していく必要があると思われまますので、より戦略的に取り組んでいただくことを要望したいと考えております。

次に、②県内生産品の輸出についてとして、TPPなど、アメリカの動向が不透明であったりはしますが、農業生産技術や日本一の残留農薬分析技術も宮崎の強みであって、さまざまな世界に誇れる県内生産品の輸出が促進され、そのことで経済波及効果等が生産者に反映されるような海外戦略が展開されることを要望したいと考えております。

次に、3、海外からの誘客促進等の取り組みについてであります。

まず、(1) 観光誘客についての中の①本県の

現状についてであります。ここでは、外国人旅行者が増加傾向にあった中で、熊本地震による影響があったことなどについて記載したいと思っております。

②本県の主な取り組みでは、受入環境の整備、ターゲットを明確にした誘客促進、広域連携による誘客促進、熊本地震対策などの取り組みについて記載したいと思っております。

③成果指標については、みやざきグローバル戦略で定められている成果指標を記載します。

次に、(2)みやざきMICEについての中
①本県の現状では、誘致の都市間の競争の激化に触れ、②本県の主な取り組みでは、MICE推進体制の整備、受入体制の強化、誘致促進などの取り組みについて記載したいと思っております。

③成果指標については、みやざきグローバル戦略で定められている成果指標を記載します。

次に、(3)経済交流の基盤整備についてであります。

ここでは、①航空ネットワークについて、②海上ネットワークについてとして、それぞれ本県の現状や主な取り組みについて記載し、委員からありました意見も加えて述べたいと思っております。

最後に、(4)県への提言として、委員からありました意見をもとに、重要港湾に関する次の2点を要望したいと考えております。

1点目が、クルーズ船の受け入れと貨物港としての役割が最大限に果たされるように、関係者・関係部局が十分に連携を図るということがとても大切なので、そのように努めていただき、さらなる充実につなげていただくこと。

2点目は、クルーズ船には対応できても、輸出港であれば、輸出をふやすためのストックヤードなどの点も含め、全体的にどうあるべきか

という将来展望をした中で、充実した整備計画にして取り組んでいただくことを要望したいと考えております。

次に、4、グローバル人材の育成及び海外との交流促進の取り組みについてであります。

まず、(1)グローバル人材の育成・確保についてであります。

①企業等と連携した人材の育成では、高校生の県内の求人・就職内定の状況等の本県の現状を記載します。

本県の主な取り組みでは、みやざき産業人材育成プラットフォームや産業界や大学等との連携による産業人材育成の取り組みについて記載するとともに、委員からありました意見についても述べたいと思っております。

②学校教育による人材育成では、本県の現状として、スーパーグローバルハイスクール事業の状況を記載するとともに、委員からありました意見についても述べたいと思っております。

本県の主な取り組みについては、国際理解教育、外国語教育の推進等について記載します。

③成果指標については、みやざきグローバル戦略で定められている成果指標を記載するとともに、委員からありました意見についても述べたいと思っております。

次に、(2)海外との連携・多様な交流についてであります。

①本県の現状では、国際交流の促進等の状況について記載します。

②本県の主な取り組みでは、海外自治体や関係機関との連携強化や交流の促進、ホストタウン構想の推進等について記載するとともに、委員からありました意見についても述べたいと思っております。

③成果指標については、みやざきグローバ

ル戦略で定められている成果指標を記載します。

最後に、（3）県への提言としては、委員からありました意見をもとに、3点、要望したいと考えております。

まず、①企業や大学等と連携した人財の育成・確保の取り組みについてとして、有能な人材を確保するためにも、インターンシップの受け入れや地元採用枠等のような雇用への取り組みについて、強く行政からも企業にアプローチしていただくよう要望したいと考えております。

次に、②学校教育におけるグローバル人材育成の推進の取り組みについてとして、本県のグローバル人材育成事業とインターンシップ事業をつなげた上で取り組むなど、各部局が連携して意識づくりや啓発等に取り組んでいただくよう要望したいと考えております。

次に、③海外自治体等との連携強化や交流促進の取り組みについてとして、経済的な交流も深めて、本県の産業発展に寄与する交流を重点的に取り組んでいただくことも大切な視点であると考え、将来にわたり夢や希望があるものについては、重点的に行われるような視点を強く打ち出していただくよう要望したいと考えております。

Ⅲの結びについてであります。国や地方が地方創生対策に取り組まれています。長期的な人口減少過程は進んでいく見通しであり、国内市場の縮小などといった厳しい状況を迎えることが推測されること、世界人口はこれからも増加傾向にあり、その中で、東・東南アジアにおける経済成長は大きく期待されるので、この海外の活力を取り込むべきこと、ただし、2017年1月のアメリカ大統領就任後の米国政府が与えるグローバルな影響など、世界経済や貿易等の国際情勢の変化には十分注意すべきであり、

現状を踏まえつつ取り組んでいかななくてはならず、海外の動向に注視し、常に現状を把握することに努める必要があること、グローバル化が進む社会の中で、多くの県民の方にグローバル人材として活躍してほしいと思いますし、活躍できる場所が県内でもふえてほしいということ述べてみたいと思います。

また、海外経済分野に限っても、課題は広範囲に及び、調査すべき事項は数多くあり、当委員会の調査は終了しても、今回の調査が一過性のもので終わらないよう、引き続き取り組んでいく必要があるのではないかと思うということも記述したいと考えております。

そして、最後に、本県が世界とともに成長していくことを期待するとして、当委員会の報告としたいと考えております。

以上です。

○田口委員長 ありがとうございます。以上が、委員会報告書骨子の正副委員長案でございます。

ここで、委員の皆さんから、骨子（案）につきまして、御意見を伺いたしたいと思います。

○中野委員 まとめとしてはこんな話になるのかなと思うんですけども、私としては、特に海外の展開促進の取り組みについて。3番目が、海外からの誘客でしょう。すると、1番、2番は、全体の経済戦略という言い方でいいんですけども、私は何回も海外に行って、デパートなんかを見ると、鹿児島牛肉とかよそのやつは並んでいるけれども、宮崎牛なんかは特に見かけないんです。

私は、その理由がやっとわかった。宮崎牛は、J A宮崎経済連が売り込みをしているわけです。あそこの戦略としては、これは、もう本当に昔からですけども、国内でもそうですけども、

いわゆる料理店とか焼肉屋をスポットで目掛けて販売しているわけです。だから、一般的に、香港の皆さんが買おうかと思ったら、なかなかデパートには売っていない。要は、そういう焼肉屋に行けば、看板がかかったところで食べる。もうずっとこのやり方なんです。私は、それでいいのかなって思う。国内もそうですよ。

だから、県への提言っていうと、貿易企業の育成・支援、そこ辺をもうちょっと具体的に書き込んでもらいたいなと思うんです。そういう販売の方法についても、やっぱり主力は今のところ牛肉ですよ。焼酎なんかもちょっと出ているけれども、そこ辺をどこかちょっと販売方法に触れてもらいたい。もう一般大衆が買って、食べる分野がほとんどないという状況ですから、私は、それがなくなかなか普及しないなと思うこと、それが一つです。

ですから、特に海外展開については、海外展開、中小企業の育成とかと書いてありますけれども、この数字を見ますと、宮崎県が大きく伸びたりしているその伸びしろというのは、ほとんど旭化成とか、旭有機材とか、そういうところの荷物なんです。直接県がやっているのは食料品ですから、特にこの数字については、食料品関係についても、しっかり指標としてまとめてほしいなと思います。

それからもう一つ、今、教育委員会もグローバル人材の育成って言うけれども、じゃあ、グローバル人材とは何かと聞いても、要は答えが出てこないんです。

だから、これはこれでいいとしても、そうなれば、やっぱりこのところは交流促進の取り組みをちょっと重点的に書いて。今は、グローバル人材って言っても、教育委員会なんかに言わせると、英語を主にやっていくぐらいの話で、

大体グローバル人材って、大学とかもう高校の辺から自分の方針として決める話で、行政がグローバル人材育成っていったって、私は、なかなかそれは難しいと思うんで、交流促進の取り組みに重点を置いて書いてもらいたい。

それからもう一つ、海外との連携・多様な交流。これは、一つは各県のパスポート発券数の全国状況を踏まえて、10万人当たりとかいう捉え方にしないと、人口が多いところは当然ふえますから、そんな形で、ぜひパスポート発券数もここにに入れてもらいたいなと思います。

○田口委員長 3点ですね。

○中野委員 それともう一つ、今、これだけ人口が減少して、いわゆる働き手が少なくなってくると、外国人労働者がふえていますよね。私は、移民とまでは言わないけれども、将来的にはもうどんどん外国人労働者がふえてくると思うんです。その手続の窓口というか、そこら辺もちょっと行政として積極的に取り組んでほしいなと思います。

○田口委員長 受入体制をしっかりしてほしいと。

○中野委員 そうですね、受入体制です。

○緒嶋委員 外国語標識をもうちょっとふやして、インバウンドなどでここに来た人に対して、その地域をわかりやすいようにする。我々が外国に行っても、日本語で書いてあれば割と安心するけれども、英語やらわからんと、なかなかそこに行っても安心ならないというか、不安がつきまとうわけです。外国人も日本に来て、自国語の標識が多ければ、安心して行動ができるし、そういうことがインバウンド対策の強化につながってくるんじゃないかなと思うので、そういうことをもうちょっと。やはり宮崎県もインバウンドをふやしていき、国際便をふやそう

ということであれば、来た人が安心して観光でも、買い物でもできるような、そういうものを作るという、おもてなしというか、気配りというか、そういうものがもっと強化されなければいかなのじゃないかなという気がするんですけども、何かそこ辺をちょっとどこかに入れてもらうといいんじゃないかなと。

○中野委員 それと、もう一ついいですか。私が、この間、台湾に行ったら、商工観光労働部長と総合政策部長が別々に来ていたんです。だから、結局、海外戦略については、部が2つになってやっているような状況で、それで、彼らが行くところを見ると、みんな我々が行くところと一緒にすけれども、航空会社とか、そんな主なところに行っているんです。

だから、もうちょっと、向こうの小さい業者、アウトバウンド、そこら辺を重点的にやって。人を集めて受けるのは彼らですから、航空会社は、エバーグリーンとか中華航空になりますと、みんな系列があるんです。すると、そこで割り当てるだけで、もうちょっとそういう戦略っていうか、彼らが行くところは大きいところや上のほうばかりで、実際のアウトバウンドのところは、最近は何もないなと思うんですけども、そこ辺も含めてちょっと戦略をしっかりとしたほうがよいと思います。

○田口委員長 商工観光労働部と総合政策部がばらばらにやっているところを一緒になってやりましょうということですか。

○中野委員 そういうことです。実態に合わせた何か。

○田口委員長 ほかにございますか。

○渡辺委員 観光誘客の視点のところ、この委員会の中で出たわけではないのですが、この間、JTBさんの持っている資料を見ていたら、

宮崎県内に宿泊をしている外国人は、香港と韓国と台湾で98%ぐらいなんです。当たり前と言えば当たり前かもしれませんが、直接空路が入っているところ以外の外国の方っていうのは、実は、宮崎県にほとんど宿泊していないというのがデータでも出ているので、ここにも訪日外国人の延べ宿泊者数というデータを活用するとありましたが、2020年を見込んで、その先も含んだ外国人誘客をふやすのであれば、直接空路があるところの外国人だけというのでは、線としては細いというか、緒嶋委員がおっしゃったのも結びつくかもしれませんが、オリンピック等も含めて、多様な外国人がという言い方は変ですが、そこも拡大できるような戦略を持つことっていうのも大事なのかなっていう感じがしますので、織り込み方はあれですけども、意見としてだけ出させていただきます。

○中野委員 もう一つ、済みません。私は、台湾なんかのツアーの参加者を集めるチラシというのは、文字だけで余り写真などが載っていないんです。だから、今、我々が南九州観光議員連盟でいろいろやっていますけれども、やっぱりビジュアルな宣伝をするためには、南九州観光議員連盟、南九州各県の行政が一緒になった効率的な宣伝をやるべきだということを入れてはどうかと。私は、南九州観光議員連盟でやることと云ったら、実際はいろいろあるけれども、具体的にはそれしかないと思っているんです。今、本当に海外向けの宣伝費が減っていますから。

○田口委員長 南九州が一体となった戦略を考えてほしいということですね。

○中野委員 はい、宣伝を。

○田口委員長 戦略、宣伝をですね。

○函師委員 この特別委員会で1年活動してき

た内容が、バランスよく取り上げられているとは思いますが、単なる総花的な報告にとどまるのではなくて、いろんな団体とか、海外に行つてまでもいろんな意見交換をしてきたわけで、できればその意見交換の中で、我々委員が提案したことが、このくらいはもう採用されていますよとか、今までにない取り組みがここの委員会の提言で始まりましたよというようなのがあると、もう一回関係団体に問い合わせでもして、委員長報告に盛り込んでもらいたいかなと思ひまして。

例えば、クルーズ船を受け入れる港が2つあるんですが、それは商業港であるがゆえに断っているケースも、年間五、六十件あるというような報告を受けて、それを調整していくというような答弁も受けているんですが、多分、そのやりとりがあったのが、9月の特別委員会ときかなと思うんですけども、その後、港湾なり関連の業者なりとの調整が進んで、ことしか来年度からは受け入れが今までよりも何十件伸びそうですとか、何かそういう改善点が見られるようなものがあれば、この委員会の成果として委員長報告をされるといいのかなと思います。

あともう一つ、今回、思い切って海外の視察も入れ込んだわけで、できれば香港、上海での現場でのやりとり、また、そこで出された具体的な県への提言なりを、もう少しボリュームを持って報告の中に織り込んでもらいたいかなと思います。

12月の委員会のおきに出されている主な意見等の中の2つ目のポツで、梱包やパッケージを強くする対策は、輸出において大きな要素だということとか、こういうことも現地に行つて初めてわかったことであつて、そういうものをまた輸出関連業者にどんどん伝えていくというこ

とが、細かなことかもしれませんが、輸出を伸ばす点でのポイントでもあるということで、ぜひ、この特別委員会があつた意義として、こういうものを具体的に委員長報告で発信されるといいのかなと思います。

○**田口委員長** わかりました。ただ、委員長としての最後のほうの結びのところ、ことし、非常に短期間の中でたくさんのことを行いましたけれども、そういう意味では、今、話が出たように、ちょっと総花的で、もうちょっと掘り下げてやりたいところもあつたんですが、そういう意味では、1年では日程も非常に少なく、ですから、再度、これは来年度になつてのお話になりますけれども、こういう調査を引き続き継続してやったらどうなのかなという思いもしたもんですから、そういうところがこの結びの部分に入っているところです。

○**中野委員** それと、参考のために、香港にある県のアンテナショップは閉鎖したらしいです。かなりの家賃を払っていたと思うんです。いろいろ考え方がありますがけれども、香港の市場の入り口のところにあつたショップは、かなり家賃が高いとか言つて。（発言する者あり）

○**田口委員長** わかりました。大分たくさんのお意見もいただきましたが、まだほかにございますか。大体よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○**田口委員長** では、今、皆さんからいただきました御意見も加味しながら、新たにちょっと作成をしたいと思ひます。

なお、委員会報告書そのものにつきましては、正副委員長に御一任いただき、案ができ上がりましたら、印刷のスケジュールの関係で、皆さんに個別に御了解をいただきたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

平成29年1月27日（金曜日）

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○田口委員長 それでは、そのような形で進めさせていただきます。

でき上がりました報告書は、ほかの2つの特別委員会の分と合冊して、2月定例会の最終日に議場で配付することとなりますので、御了承を願いたいと存じます。

なお、次回の委員会では、私が行います委員長報告の案について御協議をお願いしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

最後になりますが、協議事項（2）のその他で、委員の皆様から何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○田口委員長 それでは、次回の委員会は、2月定例会中の3月17日金曜日午前10時からを予定しておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、本日の委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前10時31分閉会